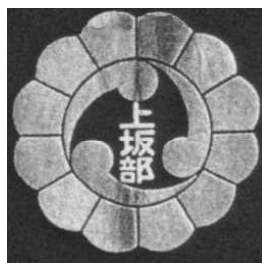


校章と校歌

校章制定日は昭和11年8月29日、当時は園田と記していました。昭和11年11月1日に伊佐具神社にて、校旗の入魂式が執り行われました。伊佐具神社御紋に基づいた校章ですが、色合いについては、黄菊の色より鮮やかで目立つ橙色もしくは金色としています。また、デザインも16弁を12弁に改変し、円心(巴の部分)を大きくするなど見やすいものとなっています。12弁になった事由は定かではありませんが、弁数を減らすことで簡略化した、あるいは皇室と同じ十六菊を遠慮したのではないかと推察されます。(東京都豊島区の区章も同じく、16弁を避けて12弁としているようです。これらは、概ね昭和20年代以前のことであって、昭和30年代以降は16弁の公的な使用は各地でみられません。)

子どもたちにとって、校歌は歌い慣れた愛唱歌です。慣れるにつれて、歌詞の意味理解も何となく自然にわかってきます。一方校章は見慣れているとはいえ、あまり意識するような存在ではないように思えます。その意味についても、見た目では判然としないことが多いです。

校章のデザインを校歌と対応させるとより明解です。(巴は水の湧く姿～、白菊黄菊咲きそろ～)上坂部小の校章は伊佐具神社御紋を頂き、地域の結びつきや人々の想いが浮かび上がってきます。そしてその背景には、日本の歴史文化がしっかりと刻まれています。たったひとつの紋章(校章)にも、つながりを辿っていけば、綿々と奥深い意味が秘められていることがわかります。



校旗の紋様



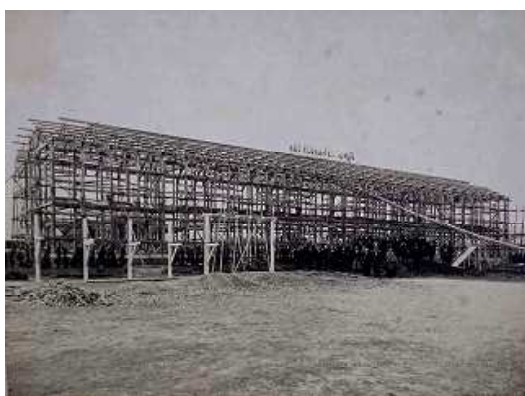
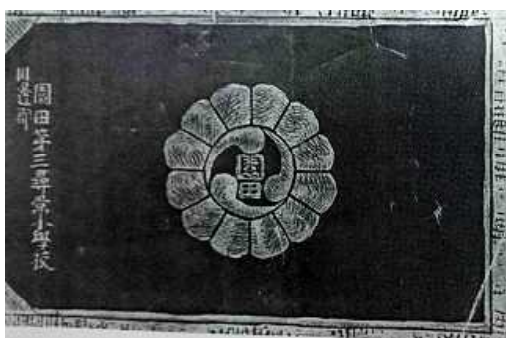
印刷図版、デジタル図版の紋様



校舎玄関の紋様



昭和11年11月1日に伊佐具神社にて、校旗の入魂式



昭和13年2月17日西校舎上棟式

同年完成